

秋田公立美術工芸短期大学 4 年制大学化検討有識者委員会
第 4 回 議事概要

- 1 日 時 平成23年 2 月10日(金) 13:30 ~ 15:30
- 2 会 場 会議兼応接室
- 3 出席者 委員：銭谷委員、渡邊委員、長澤委員、吉村委員、小林委員、河野委員、
立田委員、石山委員（欠席は、宮田委員、久世委員）
市側：石井副市長、中川副市長、樋田秋田公立美術工芸短期大学学長、
小国企画調整部長、工藤秋田公立美術工芸短期大学事務局長、
土田企画調整部次長、須藤秋田公立美術工芸短期大学事務局次長、
工藤企画調整課長、古木秋田公立美術工芸短期大学事務局総務課長、
北川秋田公立美術工芸短期大学事務局学生課長ほか 5 名
- 4 主な意見等

(1) 提言書（案）について

【提言書に関する意見】

設置者である秋田市が大きくリーダーシップを発揮してサポートしていく必要がある。大学だけが努力をしても地域連携などはうまくいかないと思う。

4 年制大学化にあっては、開学から最初の卒業生が出るまでの 4 年間で、全国の美術大学の中での位置づけが決まってしまう。これは全国の受験予備校が決める。そのことを考えると地元が特段の力で最初から応援することが大学が成功する大きな力になるものと思われる。

大学が新しくなると色々な形で教員が集まってきて、一つの塊になるが、この中で内側に向いて何かをやることと、それを外に開いていくこととのバランスがとても難しい。今回の提言書を見ると、地域立脚型の大学でもあるし、秋田から東京へというのではなく、秋田からいきなり世界へというコンセプトはとても重要だと思う。

新しい大学の場合、開学後 6 年くらいの就職のデータがその大学に入学したらこうなるということを物語ってしまう。さらに、少子化や東北地方の人口減などを含めて考えると、就職に関しては、覚悟をもって前に打って出ていく必要がある。

美短の立派ですばらしい施設が大学のメリットだと思うので、今後アピールをしっかりとすることが大切だと思う。

県内の校長、美術教員、保護者からも4年制化に対する期待の声が高まってきている。また、国民文化祭の秋田県開催と合わせて、4年制大学の設立により、秋田市の芸術・文化をいかしたまちづくりの推進が一層可能となってくると思う。

これから先、出口側のアンケートをとると思うが、卒業後、学生がどのような会社に就職でき、どのように社会に出て活躍できるかということの新大学の基本構想には入れて欲しい。

提言書の中には、財政の負担を踏まえた上でどうなのかという、いわゆる設置者である秋田市が市民の理解を得られるかということが記載されているので良いと思う。ただ、開学が平成25年4月というビジョンがある中で、かなりスピードアップして色々な戦略を練っていく必要がある。

雇用に関して、秋田県では、美術・芸術・文化といったものを主体にするという風潮にまだなっていない。雇用する側も考えを変えなければならないが、結局は、なぜ美短が4大化を目指しているのか、どういう学生が育つのかを地元の企業に知ってもらい採用につなげる必要がある。

美短が4年制大学になることで人材育成には期待しているが、秋田県の企業もコンパクトになっているので、毎年クリエイターをとることができないという状況にある。

県立大学の就職については、学内での就職の世話、職員の配置、キャリア教育の専門家の採用だけではなく、担当の教員を20数名動員し、就職の指導や企業回りを一緒に行っている。特に日本中の企業のデータは、大体足で集めたものであり、就職率90%を確保している。足で稼ぐのはものすごく大事なことだと思う。

【新大学やまちづくり、市政についての意見】

提言書の11ページに、「地元の学生を重視した推薦枠も考慮すべきと考える。」という一文が入り、非常に有り難い。また、この「地元」とは、秋田市だけではなく秋田県内の高校生が含まれることを期待したい。

秋田県の高校生が全国の受験生に太刀打ちできるのか、仮に地元枠で入学できても、入学してからどうなのかという不安もある。今後、高校側も美術系大学を志望する生徒への指導の在り方について、研修していかなければならないが、美術系大学進学実技講習会への支援等は引き続きお願いしたい。

全国の美術系大学で、高校生が大学生と合宿しながら交流するセミナーを行っているところがあると聞いているが、美術系の大学生がどのように美術を学んでいるかを、一緒に体験することでモチベーションも高まっていくと思う。なお、現在、美短の先生を招いて専門的な授業を行ってもらっているが、大変好評であり、引き続きお願いしたい。

現在の経済情勢では家庭の負担は大きいので、奨学金や特待生制度、減免以外に、例えば県立大学で行っているような教育ローンの利子の補填なども検討してほしい。

県内に新しい4年制大学ができるのは、高校生にとっても保護者にとっても受験の選択肢が増え、県内で学生生活を送ることができて有り難いという考えも多いはず。ただし、県外からの受験生が多くなり、倍率が高くなる可能性もあるので、入口の部分で県内の高校生の枠を配慮してもらいたい。出口としては、大学院ができるまでは、県外の大学院などに進学することができるようにしたり、県内外の大学との単位互換なども期待したい。さらに、美術系のベンチャービジネスなどを市内、県内、さらに東京などの大都市で開拓することも、重要になってくるのではないかな。

全国の美術系大学のカリキュラムの中で、アートマネジメントを学べる学科やコースはあまり多くないと聞いたことがあるが、今目指している4年制大学では、それがきちんと位置づけられており、美術系の中でも色々な効果を期待できる大学になるのではないかな。教育立県秋田として美短の4年制大学化をぜひ実現してほしい。

公立大学の使命である地域貢献と地方の国立大学でも行っている地域貢献は、ぶつかる恐れもあるが、協力してやっていくべき。

法人化した場合に作成する中期計画は、大体的な場合において、財政を握っている設置者に対する大学側の約束事と取られるが、うまく使えば大学に対する設置者の約束事にもなるので、うまくやってほしい。

公立は国立と同じで授業料が安いけど、公立で値上げをしようとしている大学も出てきている。現に、国際教養大学に、今度大幅に値上げをしようとする計画があると聞いている。

就職の問題だが、卒業時点で秋田県に就職できるのは、県立大学でも30%を切るくらいである。受皿自体が必要であり、出口のところでは大変な努力が必要であるということを理解してほしい。

高校に対しては、生徒にPRするのも大事だが、進路指導の先生にPRするのが非常に大事である。

美短の4年制大学化は秋田市の活性化のためというのが前提条件なので、駅前にキャンパスを作り、一般教養の1年から1年半くらいは、そこで教育してほしい。駅前に若い学生がいて学び、中心市街地を活性化させることができれば、4年制大学化の目的にも合うし、市民の方々の理解にもつながると思う。

定員400名のうち自宅通学の学生は少ないと思うので、もし中心市街地に寮を作ることが可能であれば、秋田大学でも協力したい。

市の中心市街地の活性化、新しい美術大学の存在、就業力の強い学生がうまくマッチすれば、市として4大化する意味はかなり大きいのではないかな。

芸術・文化や教育に対する市民の要望は、美短の4年制大学化だけではない。音楽団体や芝居をしている人、また、スポーツ団体からも様々な要望がある中で、美短を4大化することの意義や財政的な裏付けをきっちりとしてほしい。

今の美短はそれなりに市民に親しみを持って受け止められている。新大学がどのような名前の大学になったとしても、地域との関わりを継続してもらえればと願っている。

まちづくりが4大化のキーワードになっているので、例えば、仲小路から千秋美術館、新しい県立美術館、にぎわい交流館などを有機的に結んで動線を作る、その中に新しいキャンパスも設ける、といったようなことも含め、具体的なビジョンを早く作って説明してくれることを期待している。

新大学の構想の中で秋田モデルを形成していくということは必要である。例えば、美大であればどこにでもあるようなものと比べて、秋田の金属は一味違うとか、秋田のガラスは違うとか、そういう何かを無理にでも作る必要がある。

地域貢献については、設置者側から、大学が様々な形で街に出て行くように、色々とお願いをしたい。新大学の構想の中にある地域文化計画専攻にしても、学校の中はあくまで作業場であり、実際は外に出て行って、その場所で具体的なことが行われなければ実像が見えてこない。

自治体の大学にはプロとしての教員がいるが、予算がないのでそこに仕事を安く頼めばよいという安易な発想をすると、育った学生が自立していく芽を摘んでしまうことにもなりかねないので、設置者側も心してほしい。

大学院については、全部の授業を英語で行うくらいのことをすれば、おそらくは、秋田を目指してくる学生が多くなり、世界中の人が秋田に集まってくる。公立だから学費が安いことも有利である。独自性を考えると、何か思いきったことを小さい規模でよいからどんと一つやるとよいのではないか。

英語に加えて、もう一つ中国語が大きくなると思うので、中国語で全部授業を行うというのも一つの売りになるかもしれない。

新大学を作る際、美短をもとにしていくとなると、ある程度現実主義をとらざるを得ない場合もあるのではないか。秋田県民は現実主義の特性を強く持っている。ある程度県民性を生かしていくことも必要ではないか。

現実的な問題の中には、就職、いわゆる出口の問題がある。特に今は、学生に対する就職の手厚い指導をしなければ学生が集まらない。また、卒業後も十分なケアをしなければならないと思う。しかしながら、理念としては、アーティスト、クリエイターというものは、自分でやっていくのが筋であり、そうでなければ将来良い仕事は出来ない。よって、教育の場では、「みんなは卒業したら自分の実力だけで世の中を生きていくんだ。」というような教育を理念・哲学とした方がよいのではないか。

あまり過去のことに執着せず、色々なものを加えた全く新しい4年制大学として出発してほしい。大学の経営という面ではどういう形態をとるのか、いわゆる小さな政府にするのか大きな政府にするのかという問題がある。現状の秋田市の中では、小さな政府を目指すべき。また、管理部門より現場を大事にすべきであり、その中には当然、教員のこと

ある。新大学には、世界でも名の知れた実績のある教員を全部とは言わないまでも採用してほしい。

今までの短大が授業料が安く2年間であることが、4年制大学になることで、授業料が高くなり、学ぶ期間も長くなる。入口の問題は大丈夫かと思うが、楽観しすぎていけないという気がする。

秋田駅前の建物の空きスペースに、大学のサテライトシステムを置くべきではないか。大学のサテライトが駅前にあればにぎわいの創出にもつながるし、街にとって非常に良いことだと思う。

中心市街地の再開発においては、新しい県立美術館、市のにぎわい交流館、それと商業部門からなっているが、このような経済情勢の中で商業部門については、かなり悩ましい状況にある。商売にはリスクが当然ある訳だから、その辺をどう乗り越えていくのか悩みながら、この3つの建物をお互いにマッチングさせながらまちづくりということに関わっていきたい。

文化の中にスポーツが入っているかは分からないが、野球、ラグビー、サッカーなど、ほとんどが1回戦負けである。これでは、秋田県民の士気に関わるので、秋田県内においてスポーツに力を入れて、昔のスポーツ秋田を取り戻してほしい。

芸術というと音楽や演劇など色々あり、広い意味の文化でいえばスポーツなどもある中で、美術系の4年制大学を作るという背景には、平成7年以来の美短が果たしてきた重要な役割というのがあると思う。新大学を作るときもそのコンセプトをしっかりと持った上で、ほかの文化芸術分野等について、市あるいは大学としてどのように考えていくのかということは、今後の課題でもある。

中心市街地の再生と密接に絡んだ大学はあまりないと思うので、各委員から出されたアイデアは、市当局において、大胆に取り上げてほしい。無駄は廃さなければならないが、やはり出費は必要であり、初期投資をしっかりとすることが大学として良い結果をもたらすと思う。

既存の国公立大学との連携協力は、今回の大学を作る際の一番のポイントになるのでは。全国的に見て、国公立大学がこのように連携し、活躍しているところは珍しいのではないか。

秋田大学、県立大学、国際教養大学が色々なことにチャレンジし始めたのは、ここ10年くらいだと記憶している。大学がこれほど活性化している市は珍しいと思われるので、ぜひ、秋田市を担う新大学を作ってほしい。

(2) その他

意見なし。